平成 28 年度入学試験問題

一般選抜前期日程

小　論　文

注　意

1. 指示があるまで，手を触れないこと。

2. 指示に従って，解答用紙に受験番号（算用数字）および氏名をはっきりと記入すること。

3. 解答は，解答用紙の指定された箇所に，横書きで記入すること。

4. 問題冊子は 10 ページ，解答用紙は 2 枚である。もし，問題冊子の落丁，乱丁および解答用紙の汚れなどがあれば，ただちに申し出ること。

5. 問題冊子は持ち帰ること。

問題 1 （150 点）

次の文章を読んで，設問に答えなさい。

大学の授業では，教室の中だけではなく，現場に出かけていろいろ調べることがあります。私の担当授業のひとつにも，実際に地域社会の中に学生が出かけていって現場でいろいろ考え，自分たちなりの地域計画を立てるというものがあります。

大学の立地の関係上，東京を調査研究対象としているのですが，そこでいろいろな面白い発見がありました。たとえば，東京では意外と商店街が元気だということ，夜になると木々の葉のそよぎや川の流れなどから「自然が蘇（よみがえ）っている」という感覚を受けたことなどです。

その中でも，私が圧巻だなと思ったのは，東京のいわゆる下町では，玄関を開け放したままでいる地区がけっこうあるという事実です。これは大都会の常識とはかなり異なるので，教室に帰ってしばらく議論をしました。大都会に限らず，最近はどこの家庭でも，出入りの１回ごとに，玄関の戸を閉めるだけでなく鍵をかけていることが多いと思います。私も自宅には，ほとんど無意識に１回ずつガチャと鍵をかけています。

ではなぜ，下町の家々では門戸を開け放しているのでしょうか。ある学生は盗られるものが何もないから，自信（？）を持って玄関を開け放しているのではないかと，冗談めかして発言しました。確かに私たちは何かを盗られるという恐怖感が潜在的にあって門戸を閉ざしているのかもしれません。

この「門戸を開放する」と，「門戸を閉ざす」というふたつの対立する対応は，これから話をする「平凡教育」と「非凡教育」の対立軸と地下水脈としてはつながっているところがあります。

柳田國男は昭和 12 年（1937）に，旧制高等学校生という当時のエリート青年たちに向けて「平凡と非凡」（注１）という講演をしています。この講演（注２）と柳田の他の著作から学んだことを交じえながら，「平凡教育」と「非凡教育」について，ここで考えてみようと思います。

柳田は言います。昔の村（コミュニティ）では，若者に対して「平凡教育」をして

いたと。平凡教育は，そのコミュニティで生きていくための知恵の伝授を目指します。その知恵には，作物を植える時期など生業に関わる知識や，人との（とりわけ目上の人や異性との）付き合い方，さらには神様やご先祖など，あの世の世界に対する礼儀などが含まれます。つまり，「自分たちのコミュニティをうまく回転させていくための知恵の伝授」が平凡教育だといえます。

私が面白いな，と思ったのはこのような知恵は，できるだけ短い言葉で伝授するものだ，と柳田が指摘していることです。なぜかというと，みんなが忙しく働いている，その合間に言うものですから，できるだけ短くて，面白おかしい言葉が望ましく，それは諺（ことわざ）に近いイメージだと言っています。

もっとも，このような短い言葉での平凡教育というものが日常的だった半面，比較的長い言葉（いわゆる説教）を含めた，もう少し体系だった教育もありました。これらの教育には，単に天候を知る方法とか，読み書きそろばんという技術的な伝授だけではなくて，倫理観など，その人の価値観に影響を与える知恵も含まれています。

他方の「非凡教育」というのはどのようなものでしょうか。非凡教育とは他の人とは異なることを目指す教育のことです。いうまでもなく，現在の教育は非凡教育が中心となっています。「隣のＡちゃんよりもよい成績をとりなさい」とお母さんが言ったとしたら，それは自分の子のＡちゃんからの差別化を示唆しています。非凡教育とは別の表現を使えば，競争教育といえるかもしれません。

平凡教育はみんな同じものをマスターし，同等の知識を身につけることが目的なので，そこまで至らない者には説教をしたり，諺的な言辞を吐いたりして，掬（すく）い上げようとします。そのような発想はこの非凡教育にはありません。非凡教育は，分かりやすい表現をとれば，そのクラスの子どもたちの成績を点数化して，上下の一線上に並べることが可能な教育，子どもたちを差別化する教育です。私たちに親しい現在の学校教育がそれです。理想論は別にして，現実はそうだと思います。

そして柳田は次のような趣旨のことを述べ，非凡教育を批判しています。

――自分（柳田）自身も幸か不幸か，非凡教育を受けたし，今日の聴衆の多くも非凡教育を受けたかと思われる。だが，この非凡教育を受けた者には確かに優秀機敏の者が多くいたことは事実ではあるものの，他方，批判好きで，他人に同情する心のない，さらには，群衆を人間ではなく機械のように思い込んで，この機械を引き回して

みたいというような途方もない夢をいだく者がいた。そのような者たちの存在が日本の近代史を特徴づけているひとつではないか。

これが第二次世界大戦のあとの講演ならば，暗に戦争批判ではないかと深読みもできますが，これは昭和 12 年（1937）ですからそうではありません。しかし嗅覚（きゅうかく）の鋭い柳田は，この時代においても，非凡教育の悪い側面を具現化したような，一般の人たちを人間とはみなさない指導者がおり，それが日本近代の歴史にある種の影を落としていたことを感じていたのでしょう。

さらに柳田は要約すれば，次のようなことを言っています。

――非凡教育の普及によって平凡教育が没落していっていると思うのは誤りだ。ふたつの教育が存在していること，すなわち諸君（旧制高校の学生たち）が今まで受けてきた教育以外に，もうひとつ別に青年を教育する方法が厳然と存在することを知っておく必要がある。たとえば，平凡教育が最も避けるべきものと教育したのは，手前勝手であるとか，横着であるとか，自分さえよければとか，人に迷惑をかけても平気でいるとかいうことである。一方，このごろこそあまり言わなくなったけれども，親も当人もまた学校の先生たちも，子どもが勉強するのを非凡となるための手段であることを認め，よく勉強して偉い人になるようにと口癖のように言っていた。これはすなわち，「平凡であることを蔑視（べっし）する教育」である。

このように柳田は指摘していますが，「勉強しなさい！」は，このごろでもよく言われている言葉です。『サザエさん』でも，お父さんの波平さんが，しょっちゅうカツオのテストの成績が悪いことを怒っています。現代では，ごく普通の家庭でも当たり前に非凡教育がなされています。

ところで，サザエさん一家の隣には，伊佐坂難物という小説家が住んでいます。私はこの伊佐坂家というのが，サザエさん一家以外の近隣の家族，すなわちコミュニティ・メンバーの活動を象徴的に示していると解釈しています。この伊佐坂さん一家は，テレビアニメになるとよく出てきます。それはひとつの家族内の出来事だけでは息苦しく感じる最近の傾向を示していると思っています。

伊佐坂さん一家が「近隣＝コミュニティの人たち」を象徴的に示しているとするなら，アニメにこんな興味深い話がありました。

サザエさん一家が百貨店の屋上で子ども向きの『赤ずきんちゃん』ショーを観てい

ます。実は，その出し物の狼のぬいぐるみの中に入っているのは，伊佐坂難物の息子である伊佐坂甚六(じんろく)君なのです。この甚六君は大学受験を目指している浪人生で，勉強に忙しいはずの浪人生がアルバイトをしていることが父親の難物にバレるとたいへんです。バレないように，サザエさん一家は協力するのですが，結局，難物にバレてしまいます。サザエさんたちは難物が甚六君を「勉強をしないでこんなことをしているとはなにごとだ！」と叱るかと思っていたのですが，実際には「あの演技はなんだ，子ども向けの芝居でも引き受けた限りは真剣に取り組みなさい」と，自分の役割を一生懸命果たしていないことを叱りました。カツオは，「うちのお父さんだったら勉強をしないことを叱るのに，さすがに小説家だねェ」と言って感心するのです。

「学校の勉強をして成績を上げなさい」＝非凡教育，「自分の役割を一生懸命果たしなさい」＝平凡教育，という図式がたまたまこのアニメのストーリーでは対比的に出てきています。コミュニティのメンバーを象徴している伊佐坂さんが平凡教育で対応しているところを私は興味深く感じ，エピソード全体としても平凡教育の大切さを指摘していることを新鮮に感じました。

柳田の言う平凡教育・非凡教育をまとめると，ごく大まかにいえば，平凡教育はコミュニティ（村など）が担っていて，それが青年教育の基本でした。ところが明治以降少しずつ個々の家庭が教育を担うことになってきます。そして家庭が責任を担う教育の中心は非凡教育になりました。現在，主に家庭が子どもの教育の責任を担っていますから，当然のことながら，非凡教育の色彩が強くなっています。

いうまでもなく，平凡教育にも欠点はあり，非凡教育にも長所があります。平凡教育の欠点は自分自身の意見や判断を軽視し，多数の意見に従う側面があるところだし，逆に非凡教育の長所は，自立した精神と抜きん出た才能を生かすところにあると柳田は指摘しています。

けれども，私たちが認識すべきことは，ふたつあります。ひとつめは家庭が非凡教育を担うことになったのは，日本の歴史の中でたいへん新しいということ。特別に家柄のよい家庭は別として，私ども庶民は，ほんの数世代前までは平凡教育しか受けていなかったのです。非凡教育はこのように歴史の浅いものですから，現在の家庭の教育において，親が子どもに「勉強しなさい！」「よい成績をとりなさい！」以外に言

えないような不器用な現象は，自分たちの責任というよりも，歴史の浅さの責任，と責任転嫁をして気楽にやるのがよいかもしれません。

ふたつめは，コミュニティは平凡教育を担ってきた長い伝統があることです。子どもたちには本来，平凡教育も不可欠なはずです。もちろん，各家庭や学校でも平凡教育的なことはできますが，伝統あるコミュニティにそれをお願いするアイデアが今，注目されています。

【出典】鳥越晧之『「サザエさん」的コミュニティの法則』（NHK 出版，2008 年）

＊出題にあたり，原文の縦書きを横書きに直し，漢数字の一部を算用数字に改め，小見出しと作品番号を削除しました。

【用語説明】

（注１）柳田國男：日本民俗学の創始者。

（注２）旧制高等学校：1950 年まで存在した日本の高等教育機関。現在の大学（教養教育課程）に相当する。

設問 1

文章には「平凡教育」と「非凡教育」という言葉が登場しますが，両者の内容について 300 字以内で説明しなさい。

設問 2

著者は柳田國男の講演を参照しながら，現代の教育が「非凡教育」に偏っていることを問題視しています。その理由を簡潔にまとめたうえで，この主張に対するあなたの考えを 500 字以内で述べなさい。

問題 2 （150 点）

以下の図は，厚生労働省の『患者調査』および『国民健康・栄養調査』の計数に基づくものです。これらの図を参照し，次の設問に答えなさい。

設問 1

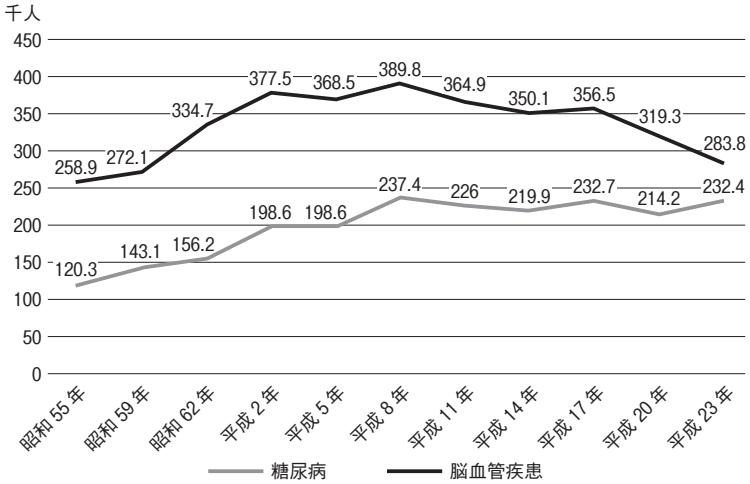
現在日本では，偏った食生活や運動不足そして喫煙など，好ましくない生活習慣の積み重ねによって引き起こされる生活習慣病が国民の健康に関する大きな課題となっています。糖尿病や脳梗塞等の脳血管疾患は代表的な生活習慣病です。

そこで図 1 の推計患者数の推移の特徴的な動きを指摘し，そのうえで図 2 の運動習慣者の割合および図 3 の喫煙習慣者の割合と生活習慣病との間にどのような関係が見いだせるか，250 字以内で述べなさい。

設問 2

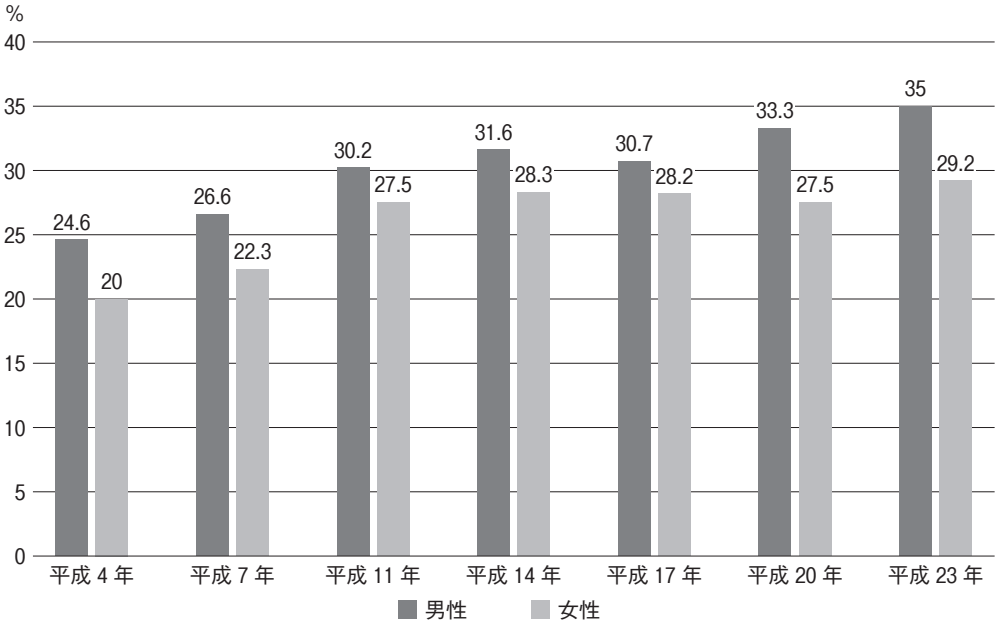
図 4 ～図 6 は運動習慣者，喫煙習慣者および肥満者の割合を，平成 7 年と平成 25 年とで比較したものです。生活習慣病の予防という観点から，これらの年度比較を通してどのような諸問題を指摘できますか。また，これらの問題を解決するためにはどのような対策が必要と考えますか。500 字以内で述べなさい。

図 1　推計患者数



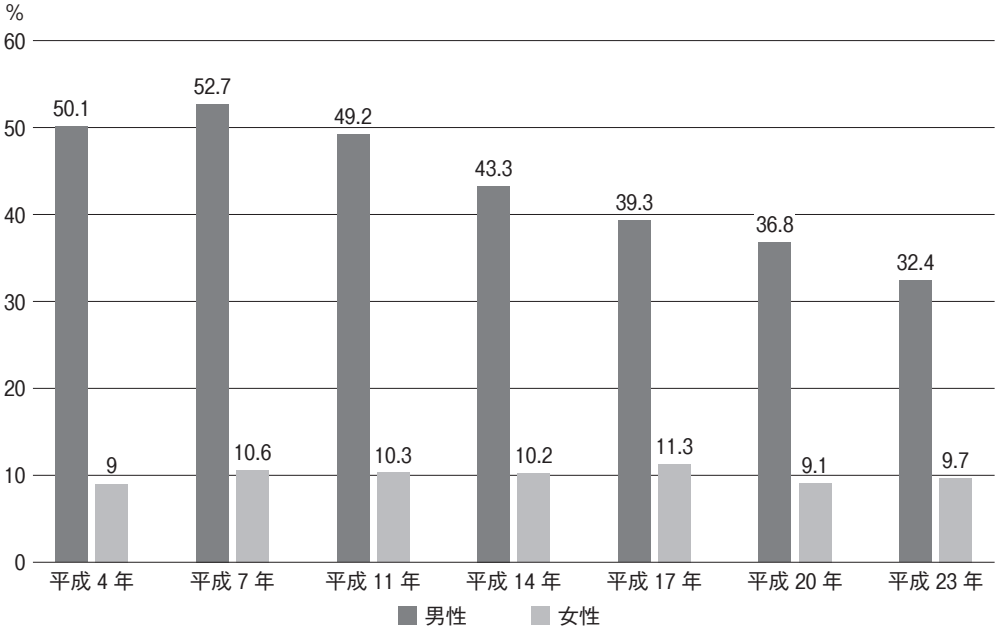
（出所）厚生労働省『患者調査』より

図２　運動習慣者の割合



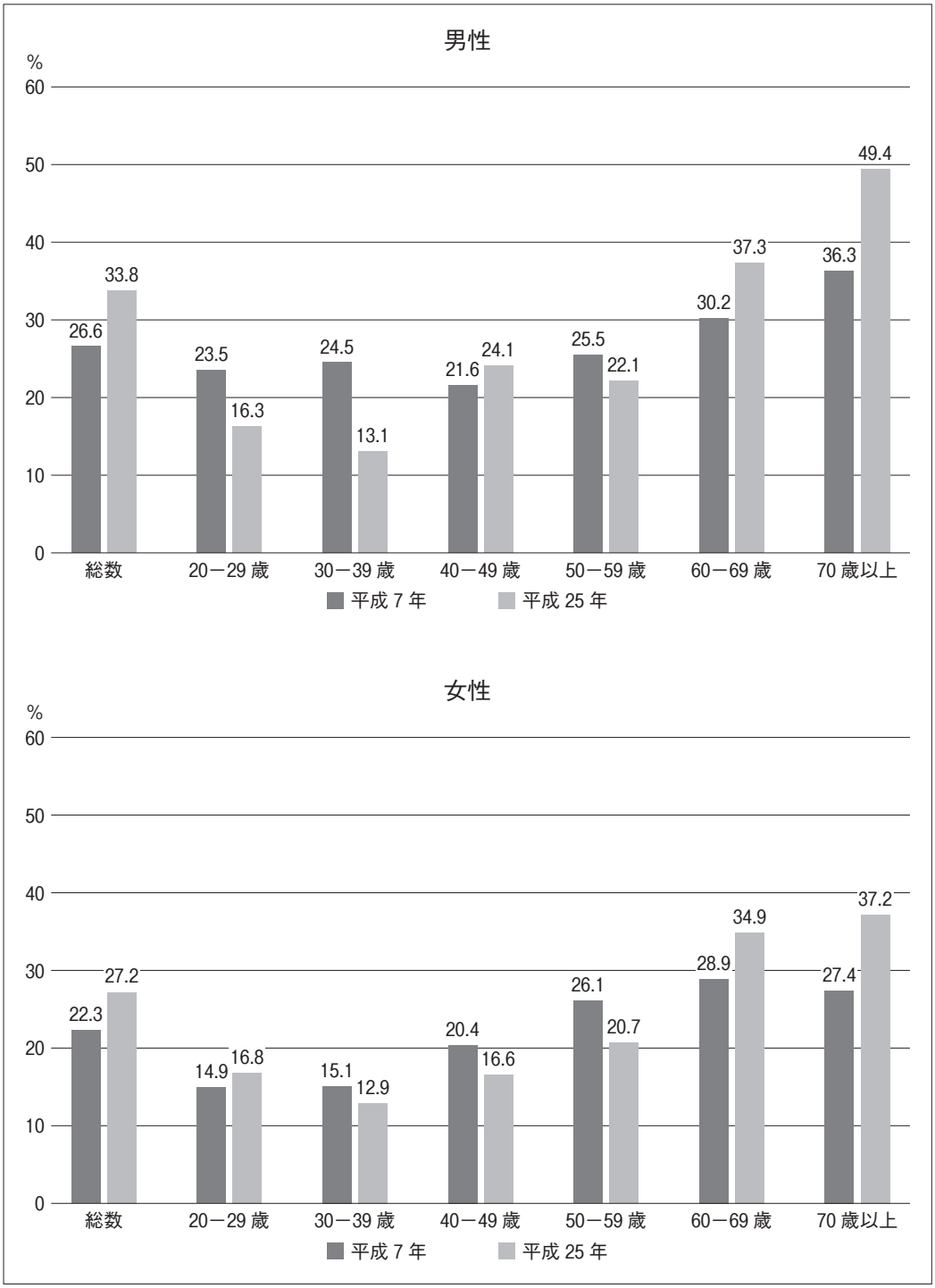
注）　運動習慣者とは，１回 30 分以上の運動を週２回以上実施し，１年以上継続している者。
（出所）厚生労働省『国民健康・栄養調査』より

図３　喫煙習慣者の割合



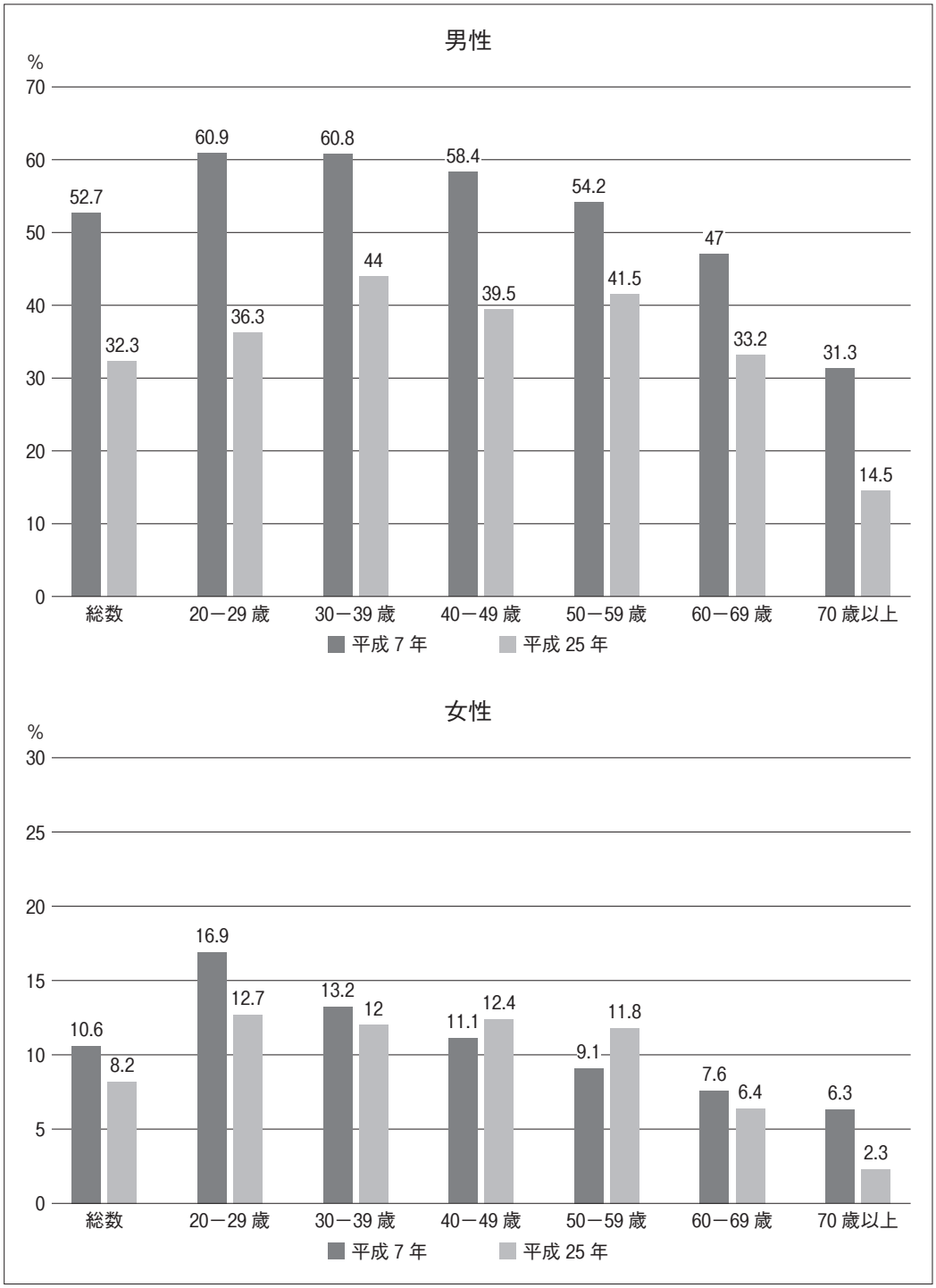
（出所）厚生労働省『国民健康・栄養調査』より

図４　運動習慣者の割合（総数および年代別）



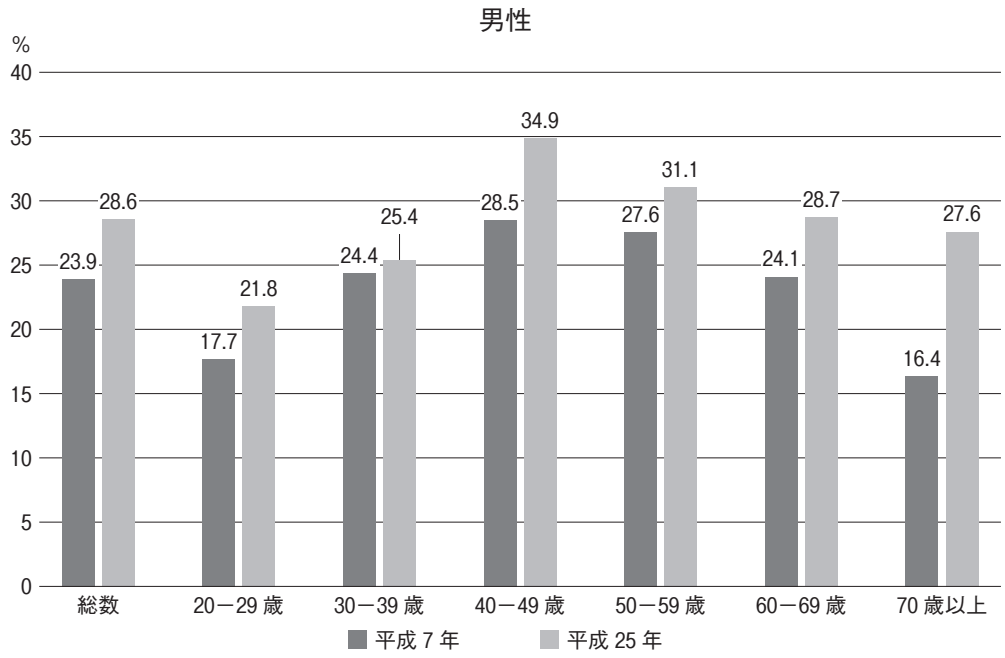
（出所）厚生労働省『国民健康・栄養調査』より

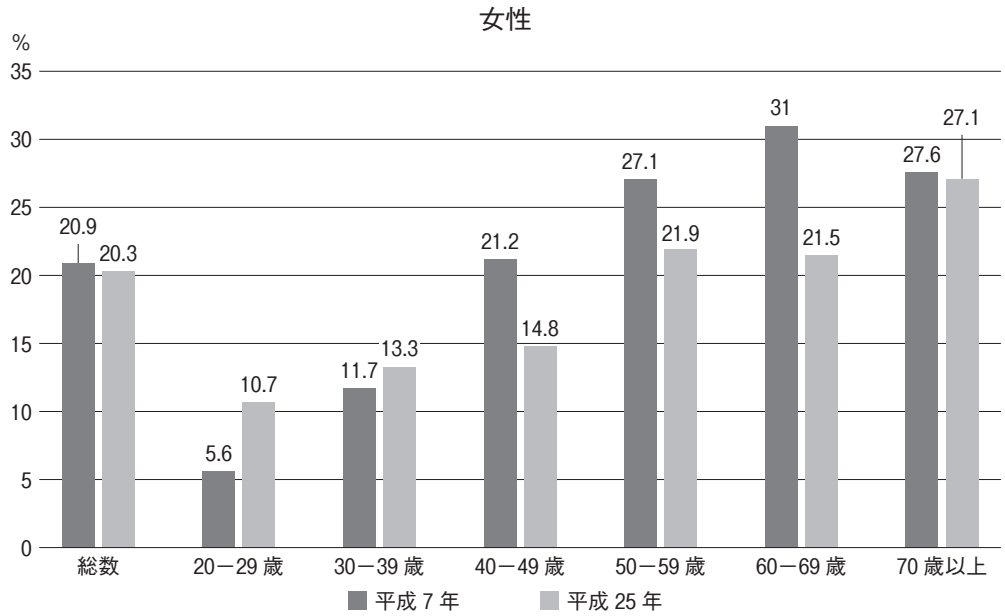
図５　喫煙習慣者の割合（総数および年代別）



（出所）厚生労働省『国民健康・栄養調査』より

図６　肥満者の割合（総数および年代別）





注）肥満とは，BMI［体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)}で計算される数値］が 25kg/m^2 以上の者をいう。

（出所）厚生労働省『国民健康・栄養調査』より